

# ANAホールディングス株式会社 説明会

## 2023年3月期 第2四半期決算

2022年10月31日

代表取締役社長

芝田 浩二



## 目次

## 1. 2022年度 第2四半期決算

決算概要	P. 4
事業別の取り組み（上期）	P. 5
旅客需要の推移・見通し	P. 6
通期業績予想（修正）	P. 7
事業別の取り組み（下期）	P. 8
中期的な戦略の方向性	P. 9-10
次期「中期経営戦略」の位置づけ	P. 11
中長期的な経営テーマ	P. 12

## 2. 2022年度 第2四半期決算（詳細）

業績ハイライト	P. 14
連結決算概要	
経営成績	P. 15
財政状態	P. 16
キャッシュフロー	P. 17-18
セグメント別実績	P. 19
航空事業	
収入・費用	P. 20
営業利益 増減要因	P. 21
売上高の推移	P. 22
ANA国際旅客	P. 23
ANA国内旅客	P. 24
ANA国際貨物	P. 25-26
ANA国内貨物	P. 27

## 航空事業

LCC	P. 28
事業別の概況	P. 29-30
ANA国際線 方面別実績（構成比）	P. 31
燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）	P. 32
航空機数	P. 33
ノエア事業	
航空事業以外のセグメント	P. 34

## 3. 2022年度 通期業績予想（詳細）

連結業績予想	P. 38
セグメント別 計画	P. 39
航空事業 売上高・営業費用 計画	P. 40
航空事業 営業利益（前年実績との差異）	P. 41
航空事業 営業利益（当初計画との差異）	P. 42
計画前提（ANA旅客事業・貨物事業、LCC）	P. 43-45

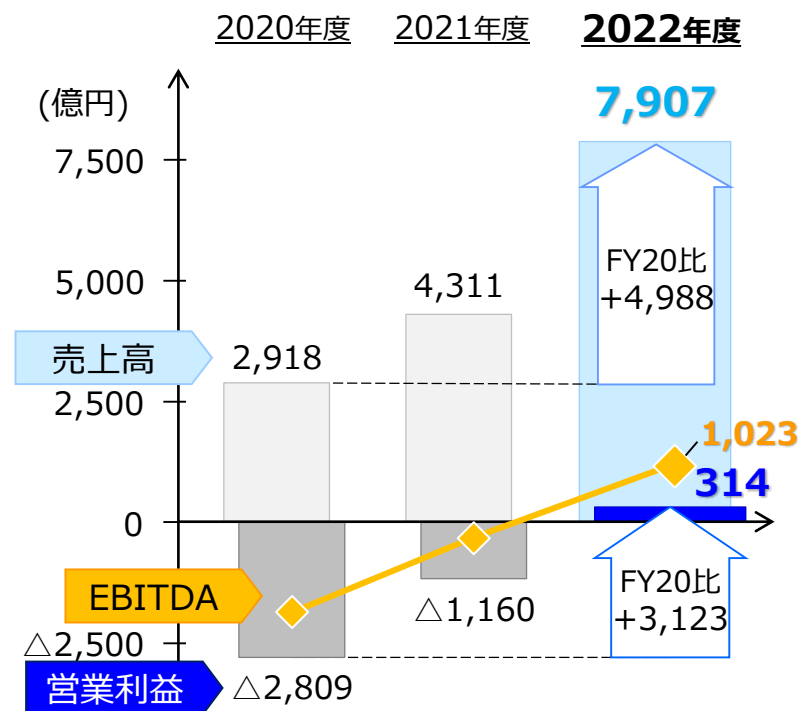
# 1. 2022年度 第2四半期決算（概要）



## 決算概要



## 2022年度 第2四半期決算（連結）

	実績	前年差	前年比
売上高	<b>7,907</b>	+3,595	+83.4%
航空事業	7,128	+3,425	+92.5%
営業費用	<b>7,592</b>	+2,121	+38.8%
航空事業	6,728	+1,888	+39.0%
営業利益	<b>314</b>	+1,474	-
航空事業	399	+1,537	-
経常利益	<b>302</b>	+1,457	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	<b>195</b>	+1,183	-
EBITDA	<b>1,023</b>	+1,448	-

売上高・営業利益の推移  
(上期・連結)

1. 売上高 : 回復し始めた旅客需要を取り込み、前年から大幅に増加
2. 営業利益 : トップラインの増加を利益へ繋げ、上期で黒字に転換
3. EBITDA : 前年同期と比べて、1,448億円の改善

## 事業別の取り組み（上期）

	具体的な取り組み	売上高 (前年同期比)	単価 (2019年度上期比*1)
 国際旅客	日本発ビジネス需要、三国間需要などを取り込み 旅客機による貨物専用便を、段階的に旅客便へ移行 → 運航コストの増加を抑制しながら収入を拡大	5.3倍	+26% (イールド)
国際貨物	フレイターをフル稼働、高単価貨物を獲得	1.3倍	+266%
国内旅客	イールドマネジメントの強化で単価を向上 6月下旬から大型機(ボーイング777型機)の運航を再開	2.2倍	+5%
 LCC	6月上旬から運賃を値上げ 夏場のレジャー・VFR*2需要を獲得	3.1倍	+13% (国内線)

収益性を重視しながらトップラインを向上 → 通期黒字化の目標達成に向けて前進

\*1 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

\*2 Visiting Friends & Relatives

# 旅客需要の推移・見通し

上期 (実績)

下期 (見通し)

国内旅客

ビジネス需要は堅調な回復が継続  
コロナ第7波でレジャー需要が伸び悩み

「全国旅行支援」の開始  
レジャー需要が回復を牽引

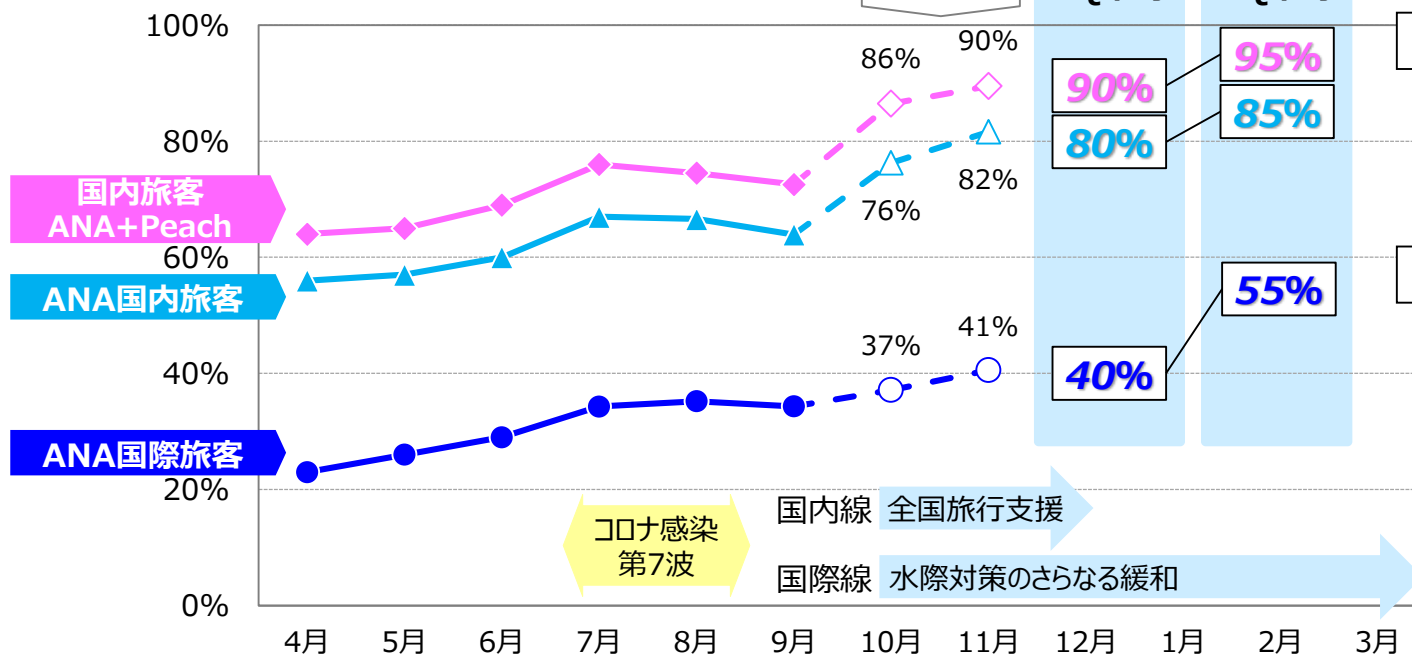
国際旅客

日本発ビジネス需要などが回復  
三国間需要も積極的に取り込み

日本発着のビジネス需要が着実に増加  
水際緩和で訪日客も増加へ

## 旅客数の推移・見通し

コロナ前の旅客数(2019年1~12月実績)=100%



<2022年度末の見通し>

国内旅客  
ANA+Peach合計で  
コロナ前水準に回復

国際旅客  
コロナ前の60%に回復

\* 収益認識に関する会計基準の適用により、実績・見通しともに特典航空券の利用旅客を含んで算定 (新収益認識に基づいて変更した2019年1~12月実績との対比)

## 通期業績予想（修正）

## 2022年度 通期業績予想の修正（連結）

(億円)	当初計画 (22.4.28)	今回修正 (22.10.31)	当初差
売上高	<b>16,600</b>	<b>17,000</b>	+400
航空事業	14,700	15,270	+570
営業利益	<b>500</b>	<b>650</b>	+150
航空事業	520	680	+160
営業利益率	3.0%	3.8%	+0.8pt
経常利益	<b>300</b>	<b>550</b>	+250
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>210</b>	<b>400</b>	+190
EBITDA	<b>2,035</b>	<b>2,105</b>	+70



## 修正のポイント

- 1) 国際線事業の増収（旅客・貨物）
- 2) 国内旅客の需要回復は後ろ倒し
- 3) 市況前提を見直し（為替・燃油）

**通期業績予想を上方修正  
（上期の利益上振れ分を反映）**

市況	当初計画	修正計画 (下期)
為替レート (円/US\$)	120	145
ドバイ原油 (US\$/bbl)	105	100
シンケロ (US\$/bbl)	120	130

## 事業別の取り組み（下期）

	事業環境	取り組み方針
 国際旅客	水際対策が緩和	機材・人財のリソースを活用、生産量・ネットワークを迅速に回復 ・北米線・アジア線を中心に、生産量を大幅に増加
国際貨物	需給はやや軟化	需要が堅調な路線に機動的に運航便を設定、高い収益性を維持 ・フレイターはフル稼働を維持、旅客機貨物専用便は旅客便へ移行
国内旅客	ウィズコロナが加速 「全国旅行支援」の開始	需要の回復を捉えて、旅客数の獲得を強化 ・全15機の大型機(ボーイング777型機)が運航可能に
 LCC	レジャー・訪日客が増加	機材稼働を向上して収益性を改善 ・国際線の運航を再開・新規就航

国内線の運航便数はグループ全体でコロナ前水準に

上期

収益性を重視した対応

下期

生産量を拡大して、マーケットシェア向上も同時に追求

## 中期的な戦略の方向性（事業戦略）

### 中期的な方針

### 目指す方向性

#### 航空事業

- 1) 3ブランドのポートフォリオ最適化によるトップラインの拡大  
・成長ドライバーは「国際線」、「レジャー」、「訪日客」
- 2) コンビネーションキャリアとして貨物事業の収益を拡大
- 3) デジタル化、省人化で高いコスト効率を実現

#### 航空事業の利益最大化

AMCアプリリニューアル  
2022/10/20

進化

スーパーアプリ



顧客の回遊を促進

ANAグループ経済圏の確立

#### 非航空事業

- 1) 「人とモノの移動」領域における新たな事業の創造  
・航空と非連動の収益ドメインの拡大

#### 非航空事業の収益拡大

ボラティリティ耐性の高い、持続的に成長できる収益モデルを構築

## 中期的な戦略の方向性（財務戦略）

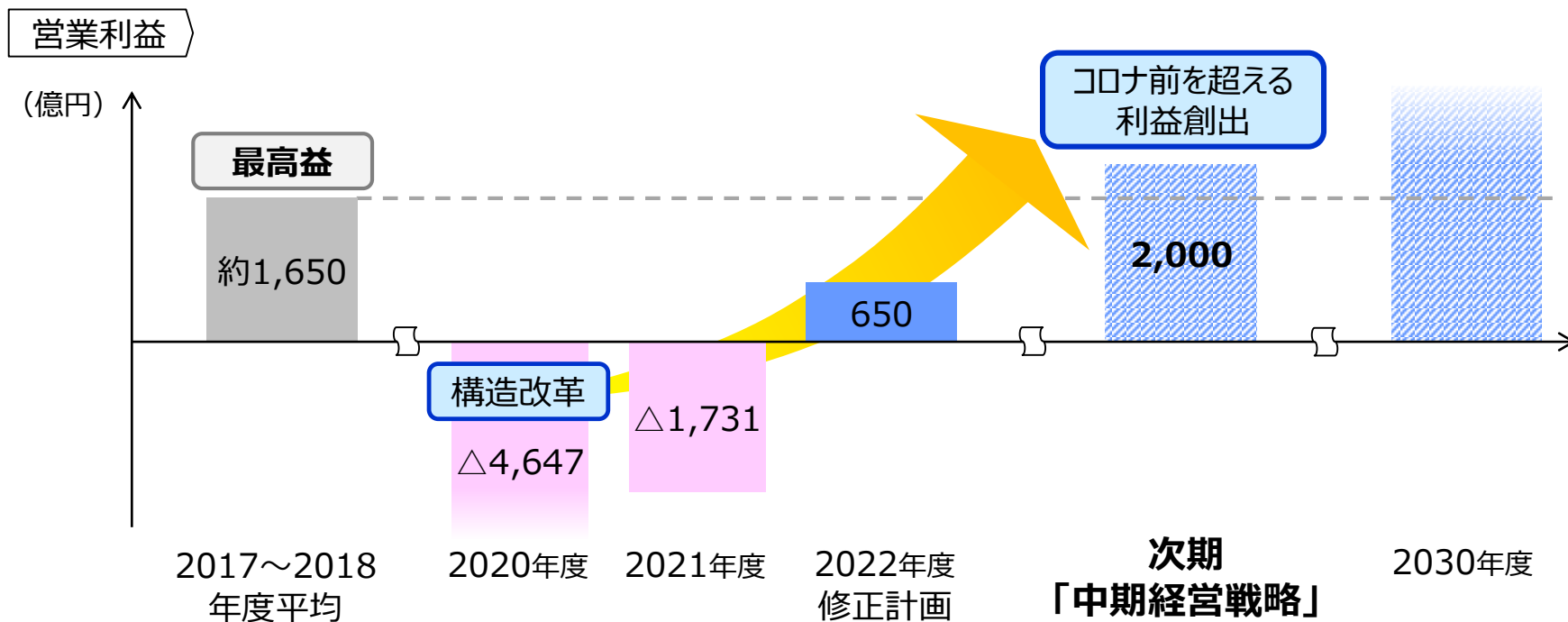
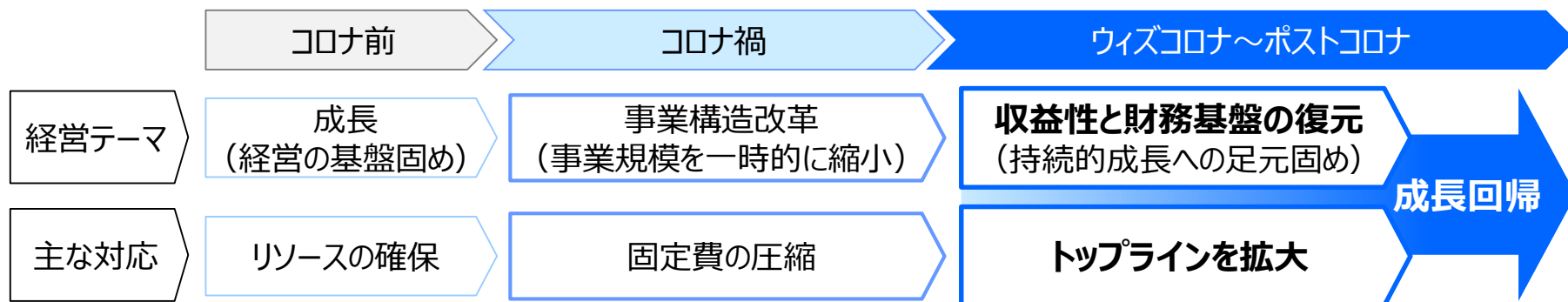
### 中期的な方針

### 目指す水準

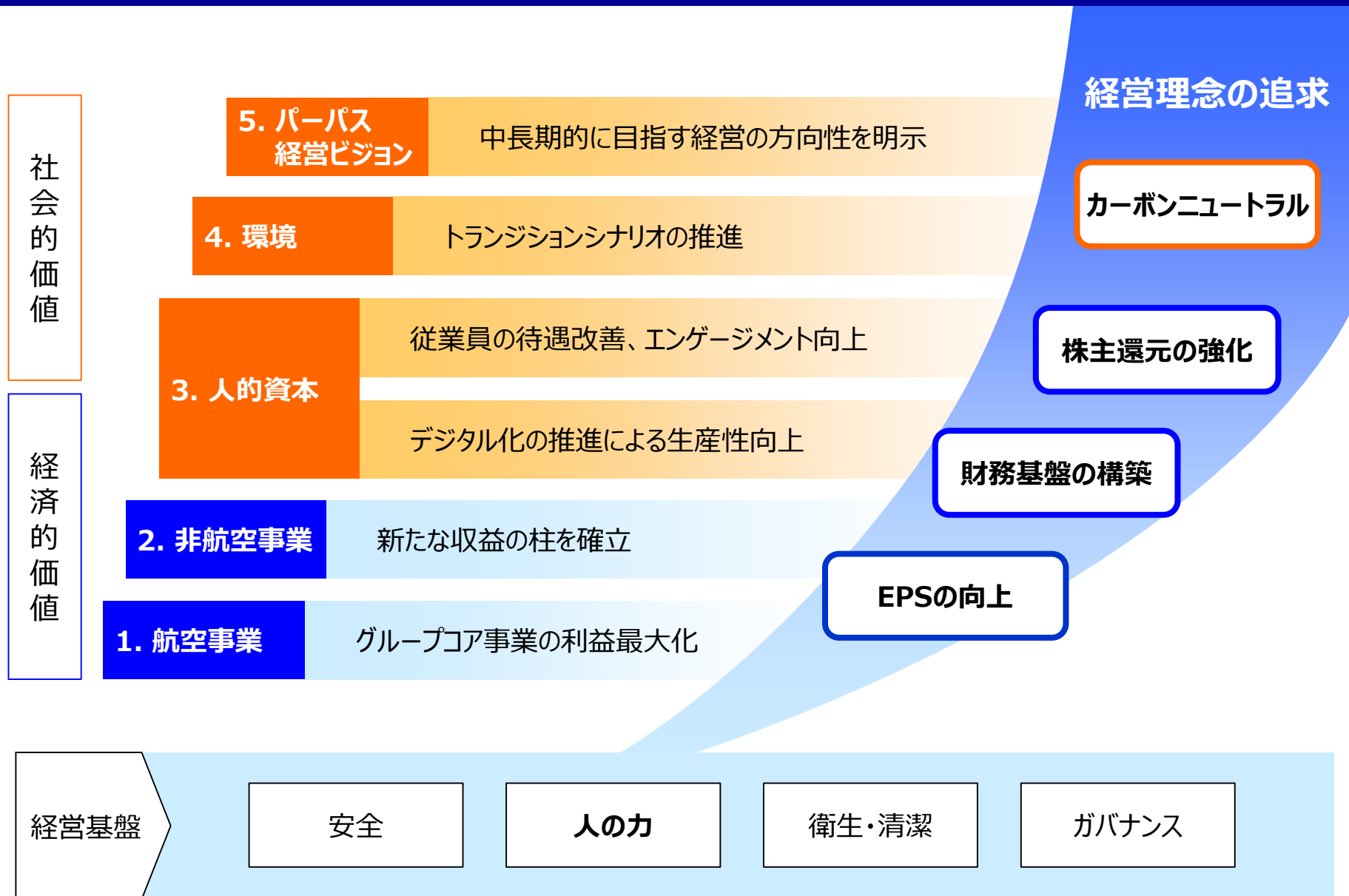
損益（P/L）	1) トップラインを向上 2) コロナ前以上の利益・利益率を実現 ・固定費のリバウンド抑制を継続	✓ 売上高 2兆円 ✓ 営業利益 2,000億円 ✓ 営業利益率 10%
バランスシート	1) 着実な財務基盤の回復 2) 手元流動性を中期的に圧縮	✓ 自己資本 1兆円以上 ✓ 自己資本比率 40%水準
キャッシュフロー	1) 財務規律をふまえた設備投資 2) フリーキャッシュフローの確実な創出	✓ 設備投資 2,500億円/年 ✓ フリーキャッシュフロー ポジティブ維持

収益性の向上と財務基盤の回復を同時に追求

## 次期「中期経営戦略」の位置づけ



## 中長期的な経営テーマ



## 2. 2022年度第2四半期 決算（詳細）



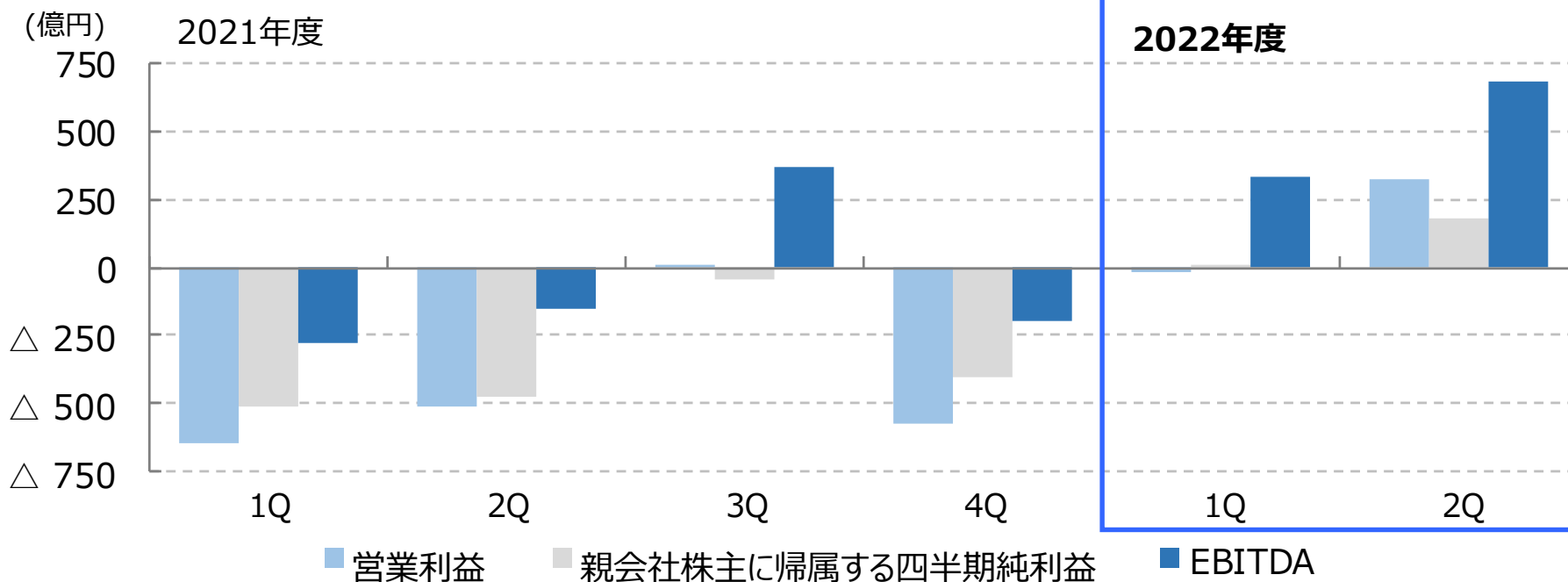
## 当第2四半期と前年度各四半期の業績比較

## 【2022年度 第2四半期 累計 (連結)】

- 営業利益 : 314億円 (前年同期比 +1,474億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 195億円 ( 同 +1,183億円)
- EBITDA\* : 1,023億円 ( 同 +1,448億円)

## 【第2四半期 (7-9月期) (連結)】

- 営業利益 : 327億円
- 親会社株主に帰属する  
四半期純利益 : 185億円
- EBITDA : 685億円



\* 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

## 経営成績

(億円)	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年差	FY2022 第2四半期	前年差
売上高	4,311	7,907	+ 3,595	4,402	+ 2,080
営業費用	5,471	7,592	+ 2,121	4,075	+ 1,239
営業利益	△ 1,160	314	+ 1,474	327	+ 841
営業利益率 (%)	-	4.0	-	7.4	-
営業外損益	4	△ 12	△ 16	△ 69	△ 65
経常利益	△ 1,155	302	+ 1,457	258	+ 775
特別損益	△ 58	△ 0	+ 57	-	+ 58
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 988	195	+ 1,183	185	+ 661
四半期純利益	△ 977	200	+ 1,178	189	+ 662
その他包括利益	60	221	+ 161	△ 56	△ 91
包括利益	△ 917	422	+ 1,340	132	+ 570

## 財政状態

(億円)	FY2021 期末	FY2022 第2四半期末	前年度 期末差
総資産	32,184	32,674	+ 490
自己資本	7,972	8,413	+ 440
自己資本比率 (%)	24.8	25.7	+ 1.0pt
有利子負債残高	17,501	16,399	△ 1,102
D/ELシオ (倍)	2.2	1.9	△ 0.2
手元流動性資金 *1	9,509	9,970	+ 461
純有利子負債残高 *2	7,991	6,428	△ 1,563
ネットD/ELシオ (倍) *3	1.0	0.8	△ 0.2

\*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

\*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性

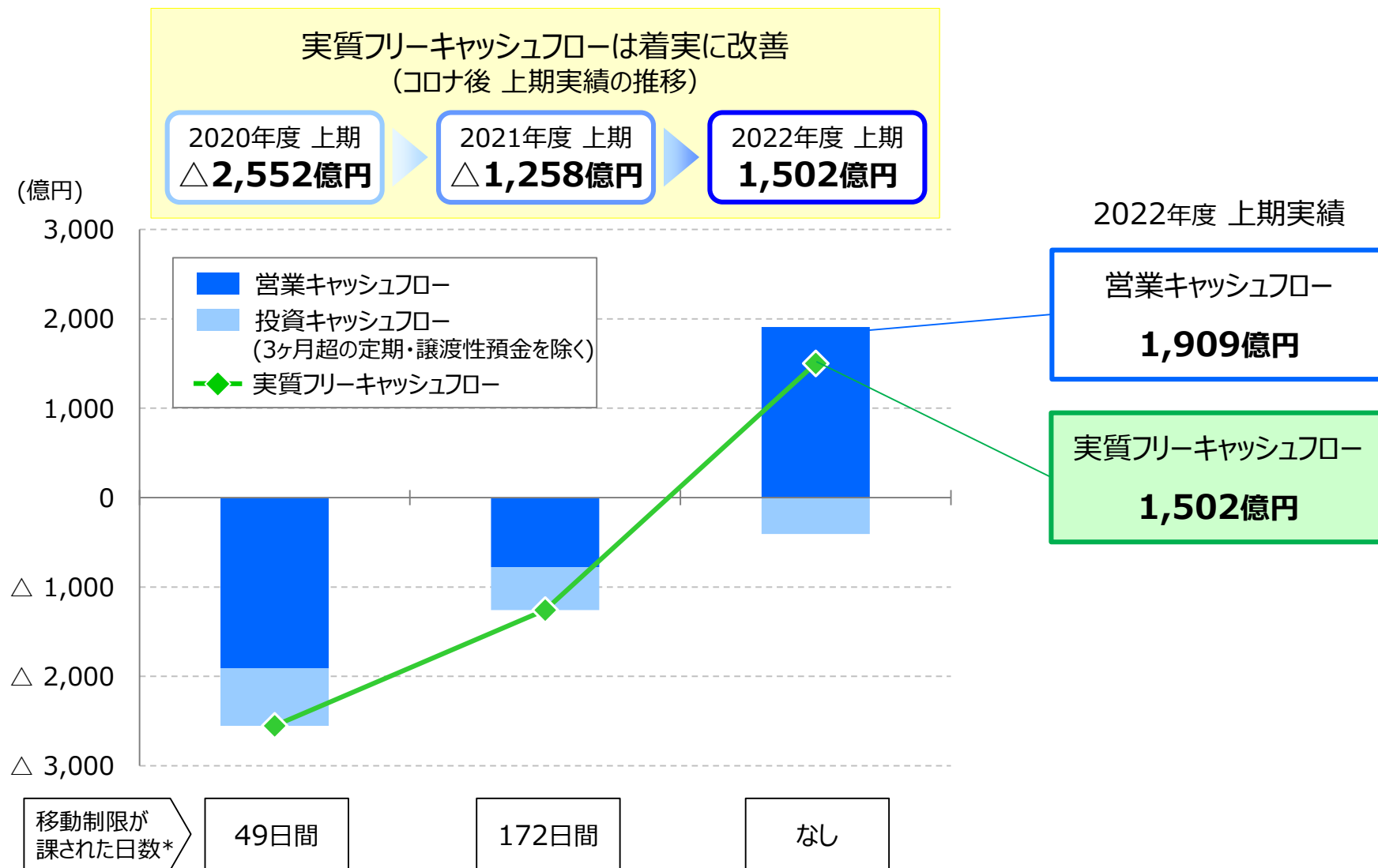
\*3 ネットD/ELシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

## キャッシュフロー

(億円)	FY2021 第2四半期	FY2022 第2四半期	前年差
営業キャッシュフロー	△ 778	1,909	+ 2,688
投資キャッシュフロー	2,083	△ 977	△ 3,061
財務キャッシュフロー	△ 191	△ 1,120	△ 929
現金及び現金同等物の増減額	1,113	△ 109	△ 1,223
現金及び現金同等物の期首残高	3,703	6,210	} △ 109
現金及び現金同等物の期末残高	4,817	6,100	
減価償却費	784	747	△ 37
設備投資額（固定資産のみ）	804	483	△ 321
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	△ 1,258	1,502	+ 2,760
EBITDA（営業利益＋減価償却費*）	△ 424	1,023	+ 1,448
EBITDAマージン（%）	-	12.9	-

\* 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

## 【参考】実質フリーキャッシュフローの推移



\* 東京都において「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が発出された日数

## セグメント別実績

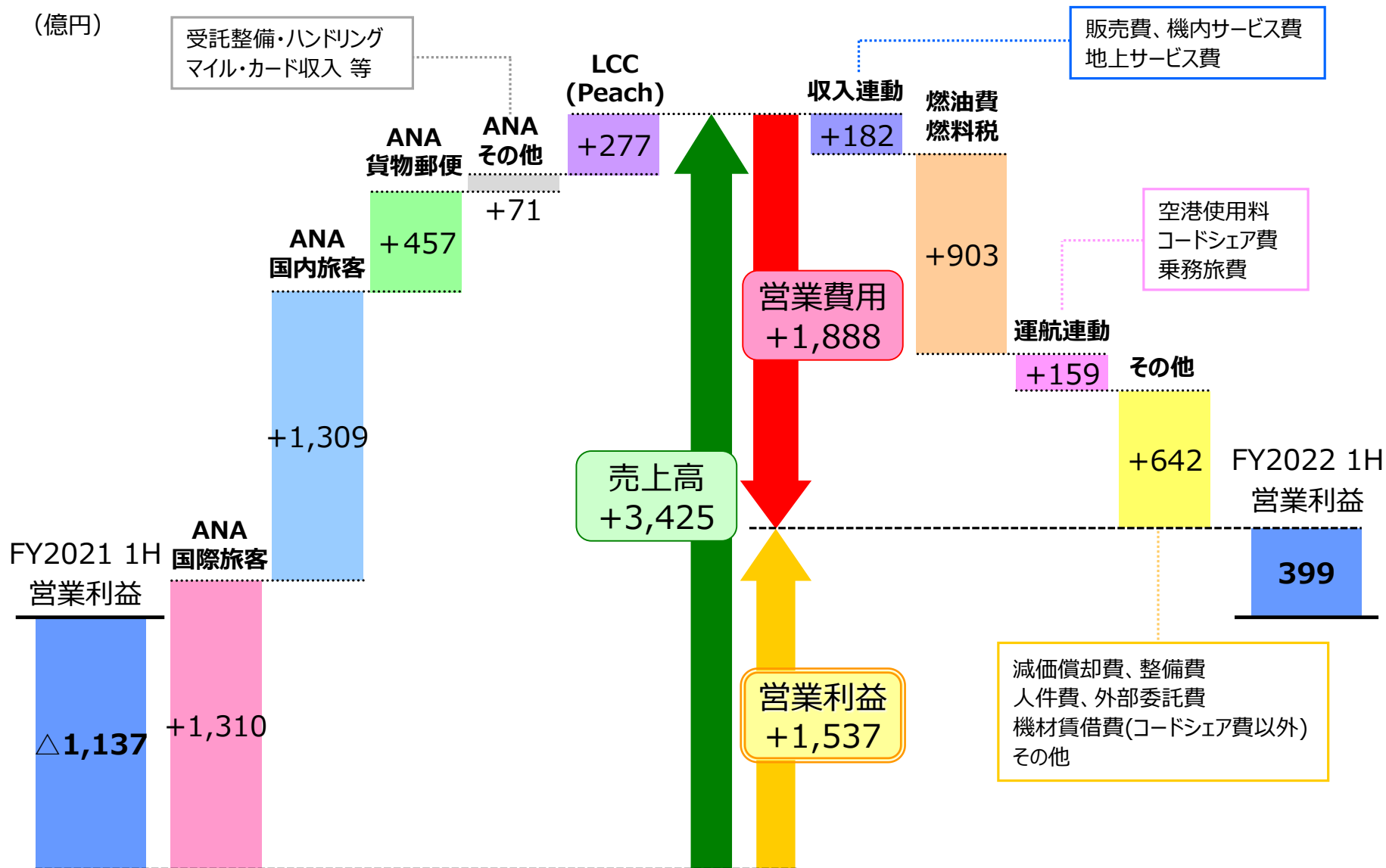
(億円)		FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年差	FY2022 第2四半期	前年差
売上高	航空事業	3,702	7,128	+ 3,425	3,985	+ 1,984
	航空関連事業	976	1,135	+ 159	581	+ 138
	旅行事業	196	319	+ 123	180	+ 75
	商社事業	383	476	+ 92	251	+ 60
	その他	174	177	+ 2	88	△ 0
	調整額	△ 1,123	△ 1,330	△ 207	△ 685	△ 176
	合計 (連結)	4,311	7,907	+ 3,595	4,402	+ 2,080
営業利益	航空事業	△ 1,137	399	+ 1,537	419	+ 880
	航空関連事業	16	△ 32	△ 48	△ 51	△ 17
	旅行事業	△ 1	△ 12	△ 10	△ 6	△ 6
	商社事業	0	15	+ 15	10	+ 9
	その他	6	△ 3	△ 10	△ 6	△ 9
	調整額	△ 44	△ 52	△ 7	△ 36	△ 13
	合計 (連結)	△ 1,160	314	+ 1,474	327	+ 841

## 収入・費用

(億円)		FY2021	FY2022	前年差	FY2022	前年差	
		第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期		
売上高	ANA						
	国際旅客	304	1,614	+ 1,310	991	+ 817	
	国内旅客	1,118	2,428	+ 1,309	1,407	+ 790	
	貨物郵便	1,541	1,998	+ 457	971	+ 166	
	その他	607	679	+ 71	362	+ 48	
	LCC	130	408	+ 277	252	+ 161	
	合計	3,702	7,128	+ 3,425	3,985	+ 1,984	
営業費用	燃油費・燃料税	802	1,705	+ 903	921	+ 483	
	空港使用料	193	268	+ 74	149	+ 45	
	航空機材賃借費	562	648	+ 86	332	+ 37	
	減価償却費	700	679	△ 21	343	△ 4	
	整備部品・外注費	395	644	+ 248	348	+ 143	
	人件費	761	925	+ 163	504	+ 120	
	販売費	119	227	+ 107	114	+ 52	
	外部委託費	814	949	+ 135	495	+ 136	
	その他	488	678	+ 190	357	+ 89	
		合計	4,840	6,728	+ 1,888	3,566	+ 1,103
	営業利益	営業利益	△ 1,137	399	+ 1,537	419	+ 880
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	△ 436	1,079	+ 1,516	762	+ 876	
	EBITDAマージン (%)	-	15.1	-	19.1	-	

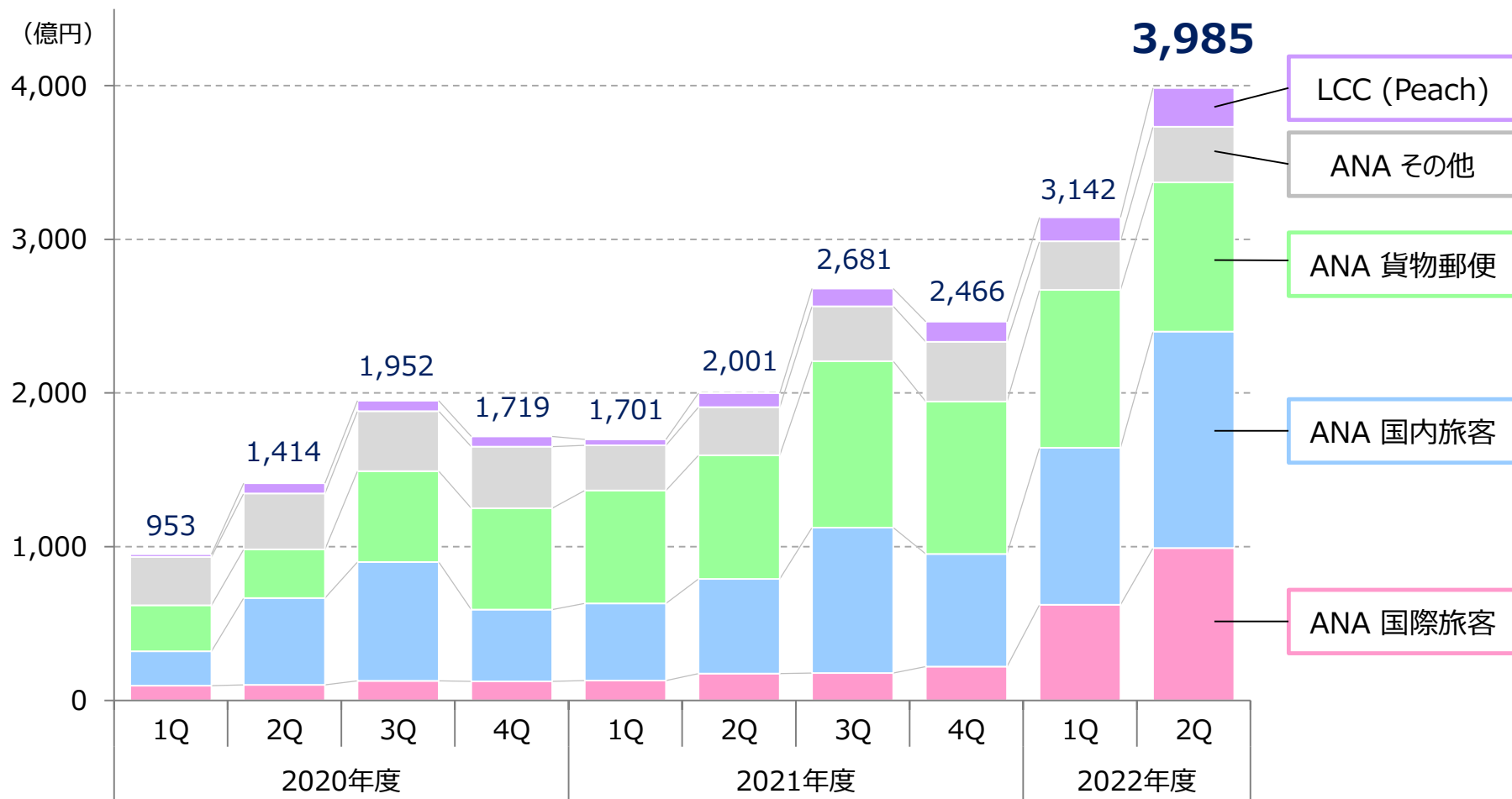
## 営業利益 増減要因

(億円)



## 【参考】売上高の推移

旅客需要の回復に伴い、コロナ禍で最高の売上高を計上



## ANA国際旅客

	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第2四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キ〇 (百万)	9,433	14,710	+ 55.9 (△57.8)	8,506	+ 72.9 (△52.1)
旅客キ〇 (百万)	2,247	10,713	+ 376.7 (△62.0)	6,324	+ 366.6 (△56.8)
旅客数 (千人)	327	1,660	+ 406.6 (△69.6)	975	+ 396.8 (△65.4)
座席利用率 (%)	23.8	72.8	+49.0pt*1 (△8.0pt)	74.4	+46.8pt*1 (△8.1pt)
旅客収入 (億円)	304	1,614	+ 430.9 (△51.9)	991	+ 468.9 (△42.9)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キ〇)	3.2	11.0	+ 240.5 (+14.0)	11.7	+ 229.0 (+19.2)
イールド (円) (旅客収入/旅客キ〇)	13.5	15.1	+ 11.4 (+26.5)	15.7	+ 21.9 (+32.2)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	92,784	97,227	+ 4.8 (+58.1)	101,665	+ 14.5 (+64.9)

\*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

\*2 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

## ANA国内旅客

	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第2四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キ〇 (百万)	15,159	23,913	+ 57.7 (△20.9)	12,829	+ 56.9 (△17.1)
旅客キ〇 (百万)	6,635	14,092	+ 112.4 (△37.4)	8,116	+ 122.1 (△32.8)
旅客数 (千人)	7,140	15,150	+ 112.2 (△38.0)	8,581	+ 117.8 (△34.1)
座席利用率 (%)	43.8	58.9	+15.2pt*1 (△15.5pt)	63.3	+18.6pt*1 (△14.8pt)
旅客収入 (億円)	1,118	2,428	+ 117.0 (△35.1)	1,407	+ 128.1 (△31.8)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キ〇)	7.4	10.2	+ 37.6 (△17.9)	11.0	+ 45.4 (△17.7)
イールド (円) (旅客収入/旅客キ〇)	16.9	17.2	+ 2.2 (+3.7)	17.3	+ 2.7 (+1.5)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	15,670	16,028	+ 2.3 (+4.6)	16,401	+ 4.8 (+3.4)

\*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

\*2 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

## ANA国際貨物（ベリー+フレイター）

	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年比(%)	FY2022 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	3,388	3,331	△ 1.7	1,687	△ 2.8
有償貨物トンキロ（百万）	2,516	2,202	△ 12.5	1,077	△ 16.0
貨物輸送重量（千トン）	476	424	△ 10.8	208	△ 14.1
貨物重量利用率（%）	74.3	66.1	△ 8.2pt*	63.8	△ 10.1pt*
貨物収入（億円）	1,383	1,835	+ 32.6	888	+ 22.8
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	40.8	55.1	+ 34.9	52.7	+ 26.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	55.0	83.3	+ 51.5	82.5	+ 46.2
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	291	432	+ 48.7	426	+ 42.9

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国際貨物（フレイターのみ）

本表のデータは、P.25記載実績の内数

	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年比(%)	FY2022 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,156	1,225	+ 6.0	602	+ 2.5
有償貨物トンキロ（百万）	810	795	△ 1.8	384	△ 7.8
貨物輸送重量（千トン）	204	197	△ 3.3	96	△ 8.8
貨物重量利用率（%）	70.1	64.9	△ 5.1pt*	63.8	△ 7.1pt*
貨物収入（億円）	507	776	+ 52.8	374	+ 37.4
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	43.9	63.3	+ 44.2	62.1	+ 34.0
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	62.7	97.5	+ 55.7	97.4	+ 48.9
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	248	393	+ 58.1	390	+ 50.6

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国内貨物

	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年比(%)	FY2022 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	437	663	+ 51.8	364	+ 51.1
有償貨物トンキロ (百万)	136	138	+ 1.3	70	△ 0.6
貨物輸送重量 (千トン)	120	122	+ 2.1	63	△ 0.1
貨物重量利用率 (%)	31.3	20.9	△10.4pt*	19.5	△10.1pt*
貨物収入 (億円)	121	118	△ 1.7	59	△ 3.3
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	27.7	17.9	△ 35.2	16.4	△ 36.0
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	88.4	85.7	△ 3.0	84.4	△ 2.7
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	101	97	△ 3.8	95	△ 3.2

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## LCC (Peach Aviation)

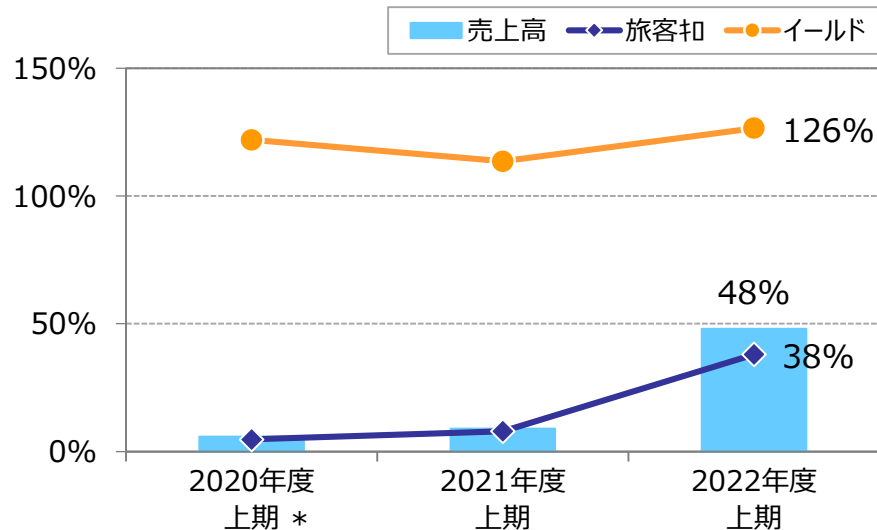
	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年比(%)	FY2022 第2四半期	前年比(%)
座席キ〇 (百万)	3,254	6,031	+ 85.3	3,137	+ 55.8
旅客キ〇 (百万)	1,777	4,208	+ 136.7	2,269	+ 89.5
旅客数 (千人)	1,554	3,684	+ 137.0	1,981	+ 87.6
座席利用率 (%)	54.6	69.8	+15.2pt*1	72.3	+12.9pt*1
売上高 (億円) *2	130	408	+ 211.7	252	+ 177.0
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キ〇)	4.0	6.8	+ 68.2	8.0	+ 77.8
イールド (円) (売上高/旅客キ〇)	7.4	9.7	+ 31.7	11.1	+ 46.2
単価 (円) (売上高/旅客数)	8,422	11,076	+ 31.5	12,742	+ 47.7

\*1 座席利用率のみ前年差

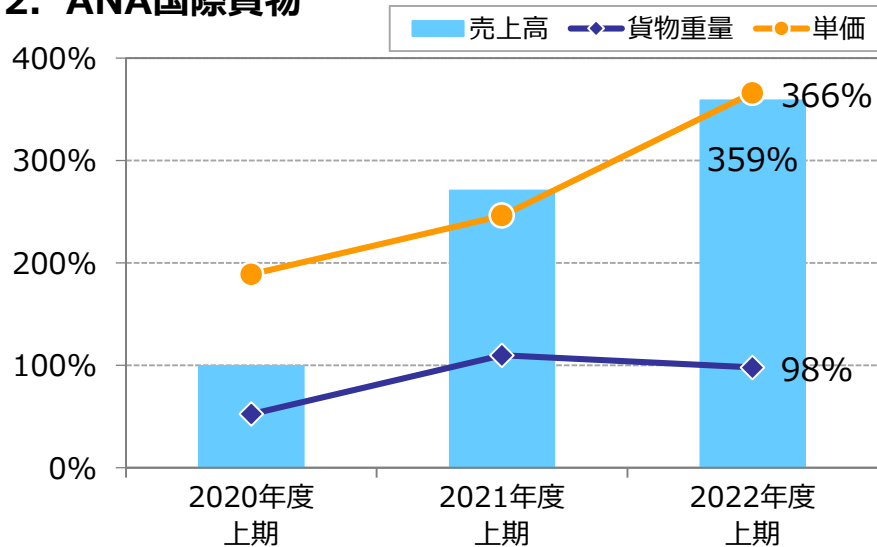
\*2 売上高に付帯収入を含む

## 事業別の概況（ANA国際旅客・ANA国際貨物）

## 1. ANA国際旅客



## 2. ANA国際貨物



## 上期(4~9月)の概況

- 1) 日本発ビジネス・三国間需要を取り込み
- 2) イールドマネジメントを強化

コロナ前比

旅客キロ 38%

イールド 126%

売上高 48%

- 1) コロナ前の需要水準で推移
- 2) 高単価貨物の取り込み強化

コロナ前比

貨物重量 98%

単価 366%

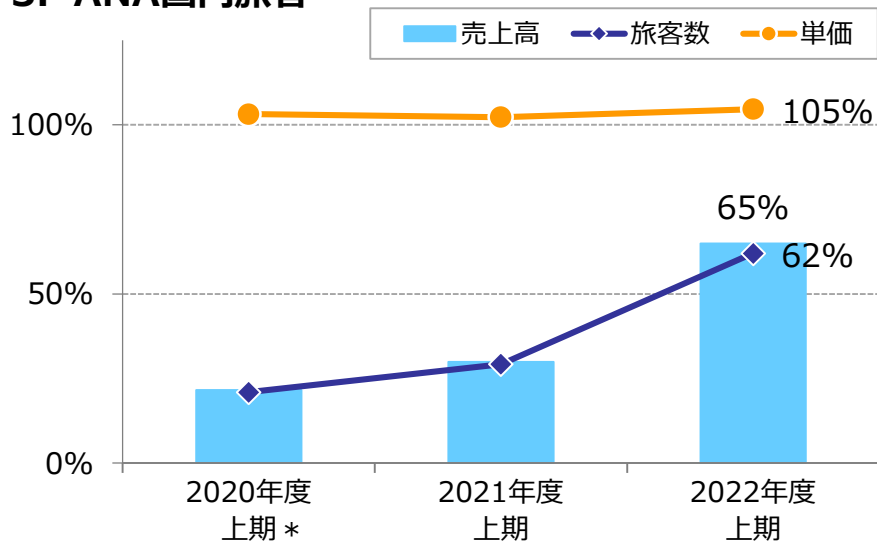
売上高 359%

\* グラフはコロナ前実績(2019年4~9月実績)=100%

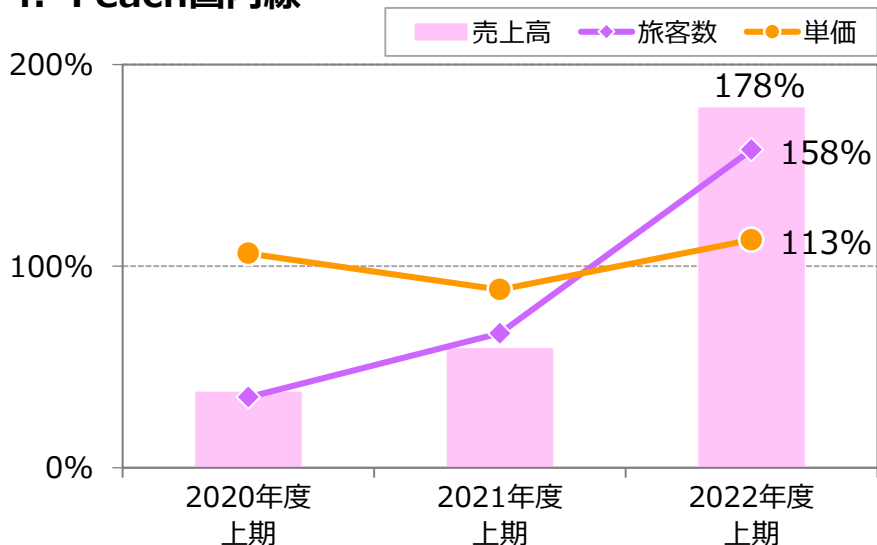
\* 2019年度、2020年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

## 事業別の概況（ANA国内旅客・Peach国内線）

## 3. ANA国内旅客



## 4. Peach国内線



## 上期(4~9月)の概況

1) 需要に合わせて生産量を拡大

コロナ前比

旅客数 62%

2) イールドマネジメントを強化

単価 105%

売上高 65%

1) レジャー・VFR需要を獲得

コロナ前比

旅客数 158%

2) 値上げ・販促強化

単価 113%

売上高 178%

\* グラフはコロナ前実績 (2019年4~9月実績)=100%

\* 2019年度、2020年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

## ANA国際線 方面別実績（構成比）

	FY2019 第2四半期累計 構成比*	FY2022 第2四半期累計 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第2四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
旅客収入	北米	30.1	+ 11.4	40.7	+ 11.2
	欧州	20.4	△ 6.1	15.6	△ 4.6
	中国	14.5	△ 9.5	4.2	△ 10.6
	アジア・オセアニア	28.5	+ 7.5	35.6	+ 8.0
	ハワイ	6.4	△ 3.3	3.8	△ 4.0

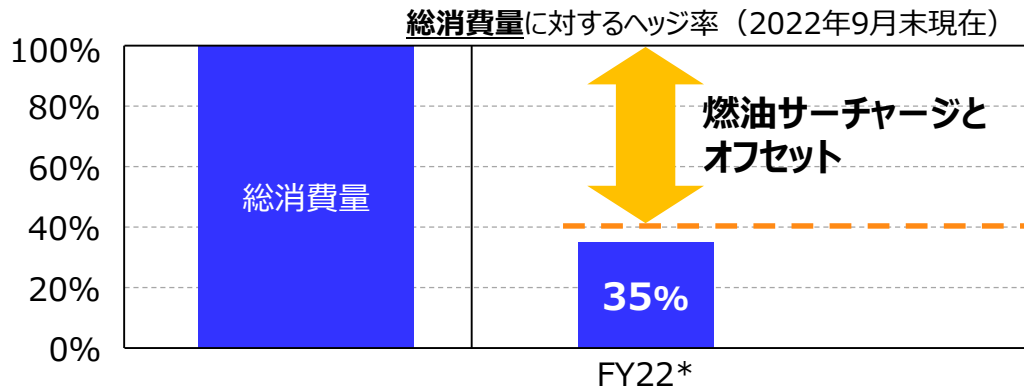
\* 2019年4-9月期実績を、新収益認識基準に置き換えて算定

	FY2019 第2四半期累計 構成比	FY2022 第2四半期累計 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第2四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
貨物収入	北米（ハワイを含む）	35.9	+ 13.6	49.9	+ 14.8
	欧州	15.1	△ 7.2	7.6	△ 7.6
	中国	22.1	△ 3.0	19.1	△ 3.5
	アジア・オセアニア	23.5	△ 0.6	22.5	△ 0.9
	その他	3.5	△ 2.7	0.9	△ 2.8

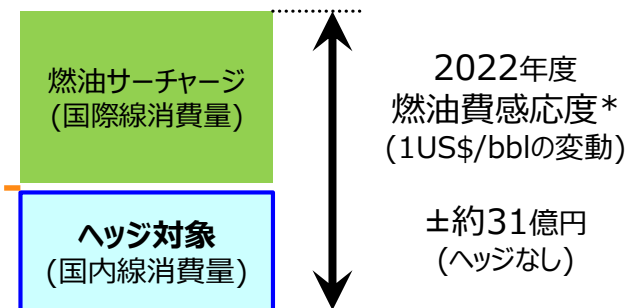
## 燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANA)

### 1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージで対応）

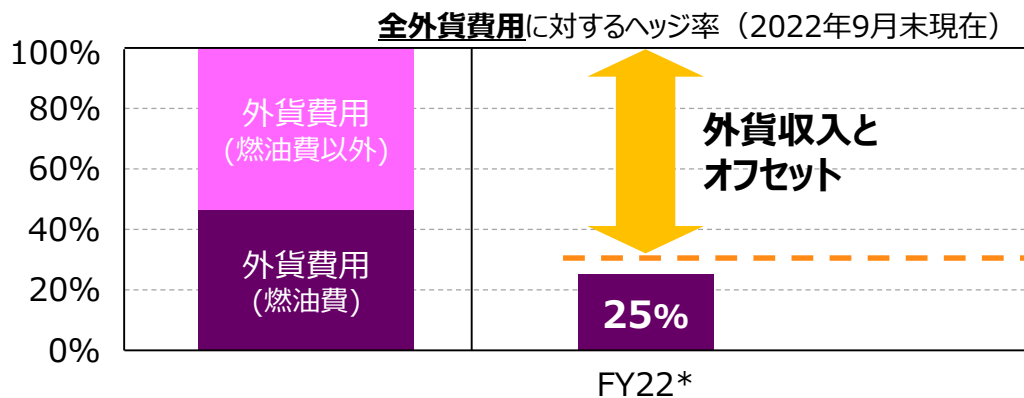


(US\$/bbl)	FY22 上期実績	FY22 下期前提
ドバイ原油	102.4	100
シンガポールクロシン	138.0	130

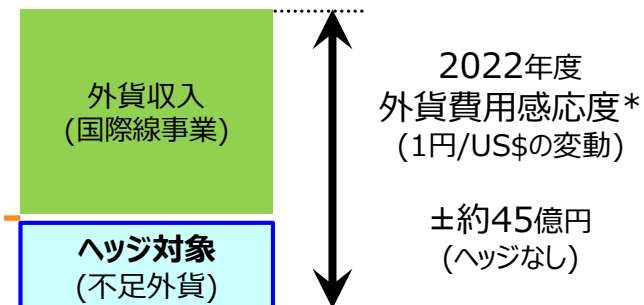


### 2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）



(円/US\$)	FY22 上期実績	FY22 下期前提
ドル円レート	134.2	145



\* 2022年8月23日開示「2022年度下期 ANAグループ航空輸送事業計画」に基づいて算定

## 航空機数

	合計					退役済み機材* を除く		
	FY2021 期末	FY2022 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数	FY2021 期末	FY2022 第2四半期末	前年度 期末差
Airbus A380-800	3	3	-	3	-	3	3	-
Boeing 777-300/-300ER	20	20	-	11	9	18	18	-
Boeing 777-200/-200ER	10	10	-	8	2	10	10	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-10	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-9	39	39	-	33	6	39	39	-
Boeing 787-8	36	36	-	31	5	36	36	-
Boeing 767-300/-300ER	18	18	-	18	-	18	18	-
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	-	6	3	9	9	-
Airbus A321-200neo	22	22	-	-	22	22	22	-
Airbus A321-200	4	4	-	-	4	4	4	-
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-	11	11	-
Boeing 737-800	39	39	-	24	15	39	39	-
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-	24	24	-
<b>ANA 計</b>	<b>239</b>	<b>239</b>	<b>-</b>	<b>173</b>	<b>66</b>	<b>237</b>	<b>237</b>	<b>-</b>
Airbus A321-200neoLR	1	2	+ 1	-	2	1	2	+ 1
Airbus A320-200neo	7	8	+ 1	-	8	7	8	+ 1
Airbus A320-200	29	27	△ 2	-	27	27	23	△ 4
<b>Peach Aviation 計</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>37</b>	<b>35</b>	<b>33</b>	<b>△ 2</b>
<b>グループ計</b>	<b>276</b>	<b>276</b>	<b>-</b>	<b>173</b>	<b>103</b>	<b>272</b>	<b>270</b>	<b>△ 2</b>

\* 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材

## 航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年差	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年差
売上高	976	1,135	+ 159	196	319	+ 123
営業利益	16	△ 32	△ 48	△ 1	△ 12	△ 10
減価償却費	24	21	△ 2	0	0	△ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	41	△ 10	△ 51	△ 0	△ 11	△ 10
EBITDAマージン(%)	4.3	-	-	-	-	-

	商社事業			その他		
	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年差	FY2021 第2四半期累計	FY2022 第2四半期累計	前年差
売上高	383	476	+ 92	174	177	+ 2
営業利益	0	15	+ 15	6	△ 3	△ 10
減価償却費	5	4	△ 1	2	1	△ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	6	20	+ 14	9	△ 1	△ 11
EBITDAマージン(%)	1.6	4.2	+ 2.7pt	5.5	-	-

Intentionally Left Blank

Intentionally Left Blank

### 3. 2022年度 通期業績予想（詳細）



## 連結業績予想

\* 2022年4月28日開示の業績予想

(億円)	FY2021	FY2022 修正予想	前年差	FY2022 当初予想*
売上高	10,203	17,000	+ 6,796	16,600
営業費用	11,934	16,350	+ 4,415	16,100
営業利益	△ 1,731	650	+ 2,381	500
営業利益率(%)	-	3.8	-	3.0
経常利益	△ 1,849	550	+ 2,399	300
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 1,436	400	+ 1,836	210

市況	FY2022 当初前提	FY2022 上期実績	FY2022 下期前提
為替レート (円/US\$)	120	134.2	145
ドバイ原油 (US\$/bbl)	105	102.4	100
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	120	138.0	130

## セグメント別 計画

(億円)		FY2021	FY2022 修正予想	前年差	FY2022 当初予想*
売上高	航空事業	8,850	15,270	+ 6,419	14,700
	航空関連事業	2,068	2,500	+ 431	2,550
	旅行事業	462	850	+ 387	1,120
	商社事業	816	1,000	+ 183	1,090
	その他	381	370	△ 11	370
	調整額	△ 2,376	△ 2,990	△ 613	△ 3,230
	合計 (連結)	10,203	17,000	+ 6,796	16,600
営業利益	航空事業	△ 1,629	680	+ 2,309	520
	航空関連事業	△ 6	55	+ 61	60
	旅行事業	△ 21	△ 5	+ 16	10
	商社事業	5	25	+ 19	15
	その他	13	5	△ 8	0
	調整額	△ 93	△ 110	△ 16	△ 105
	合計 (連結)	△ 1,731	650	+ 2,381	500

\* 2022年4月28日開示の業績予想

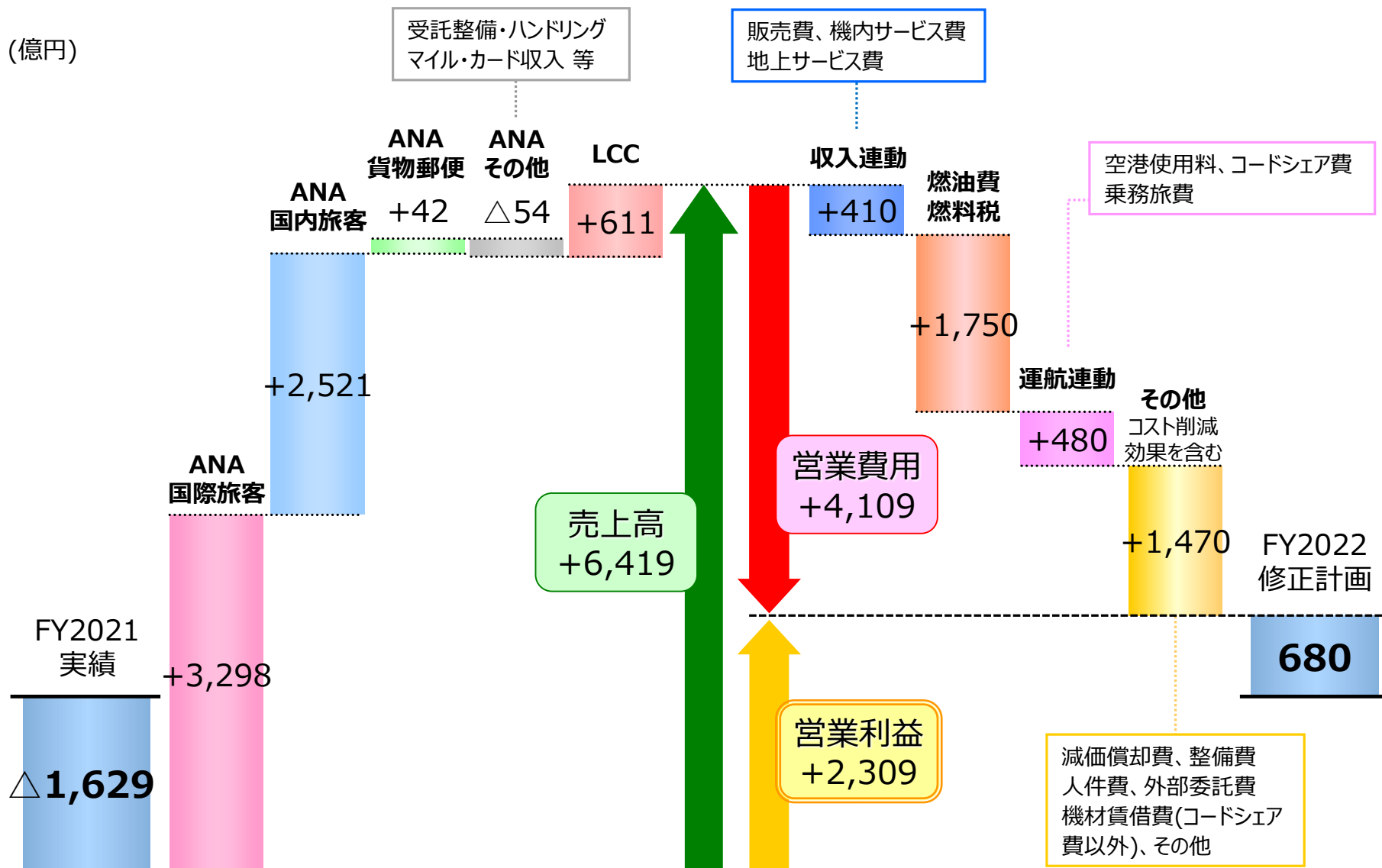
## 航空事業 売上高・営業費用 計画

(億円)		FY2021	FY2022 修正予想	前年差	FY2022 当初予想*
売上高	ANA 国際旅客	701	4,000	+ 3,298	3,020
	ANA 国内旅客	2,798	5,320	+ 2,521	5,960
	ANA 貨物郵便	3,617	3,660	+ 42	3,400
	ANA その他	1,354	1,300	△ 54	1,230
	LCC	378	990	+ 611	1,090
	合計	8,850	15,270	+ 6,419	14,700
営業費用	燃油費・燃料税	1,939	3,690	+ 1,750	3,390
	燃油費・燃料税 以外	8,540	10,900	+ 2,359	10,790
	合計	10,480	14,590	+ 4,109	14,180
営業利益	営業利益	△ 1,629	680	+ 2,309	520

\* 2022年4月28日開示の業績予想

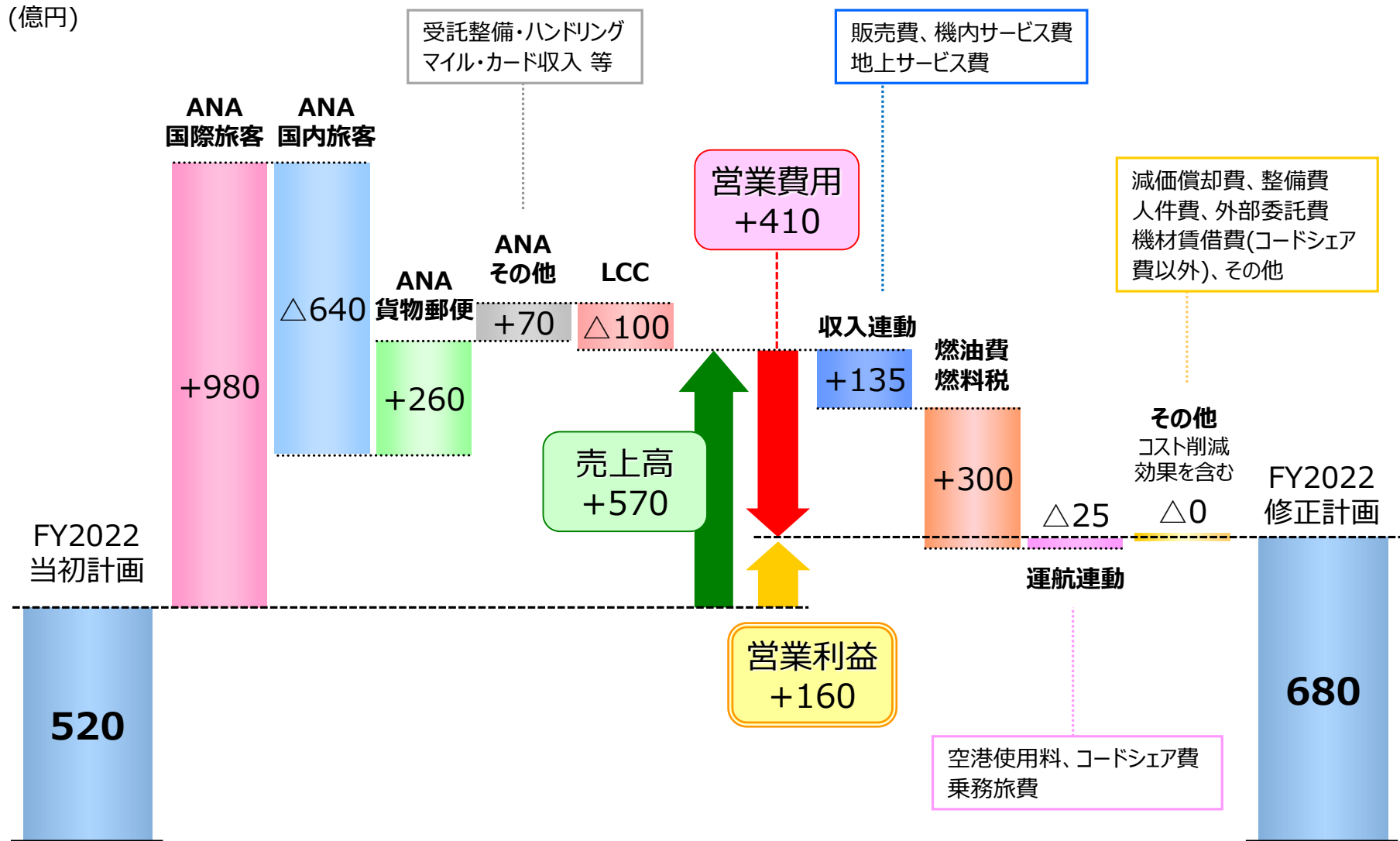
## 航空事業 営業利益（前年度との差異）

(億円)



## 【参考】航空事業 営業利益（当初計画との差異）

(億円)



## 航空事業 計画前提

## 計画前提 (ANA旅客事業)

		国際旅客			国内旅客		
		上期 (実績)	下期 (修正計画)	通期 (修正予想)	上期 (実績)	下期 (修正計画)	通期 (修正予想)
座席キロ	前年比 (CY19比)*	+ 55.9 (△ 57.8)	+ 88.9 (△ 38.7)	+ 73.7 (△ 48.4)	+ 57.7 (△ 20.9)	+ 35.9 (△ 10.6)	+ 45.6 (△ 15.9)
旅客キロ	前年比 (CY19比)*	+ 376.7 (△ 60.0)	+ 358.9 (△ 42.1)	+ 366.1 (△ 51.2)	+ 112.4 (△ 33.8)	+ 76.8 (△ 15.5)	+ 91.2 (△ 24.8)
旅客数	前年比 (CY19比)*	+ 406.6 (△ 67.9)	+ 405.7 (△ 49.8)	+ 406.0 (△ 59.0)	+ 112.2 (△ 34.4)	+ 74.7 (△ 14.8)	+ 89.6 (△ 24.8)
座席利用率(%)		72.8	72.4	72.6	58.9	66.3	62.8
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)		11.0	11.4	11.2	10.2	11.1	10.6
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)		15.1	15.8	15.5	17.2	16.8	17.0
単価(円) (旅客収入/旅客数)		97,227	94,995	95,882	16,028	15,277	15,611

\* コロナ前(2019年1月~12月実績)との比較

## 航空事業 計画前提

## 計画前提 (ANA貨物事業)

	国際貨物			国内貨物		
	上期 (実績)	下期 (修正計画)	通期 (修正予想)	上期 (実績)	下期 (修正計画)	通期 (修正予想)
有効貨物トンキロ 前年比 (CY19比)*	△ 1.7 (△ 7.4)	△ 5.9 (△ 8.8)	△ 3.9 (△ 8.1)	+ 51.8 (△ 25.9)	+ 38.9 (△ 14.8)	+ 44.8 (△ 20.5)
有償貨物トンキロ 前年比 (CY19比)*	△ 12.5 (+ 5.8)	△ 17.6 (+ 4.4)	△ 15.1 (+ 5.1)	+ 1.3 (△ 27.7)	+ 5.5 (△ 23.0)	+ 3.5 (△ 25.3)
貨物輸送重量 前年比 (CY19比)*	△ 10.8 (△ 1.9)	△ 14.5 (△ 2.3)	△ 12.7 (△ 2.1)	+ 2.1 (△ 33.9)	+ 8.5 (△ 25.9)	+ 5.4 (△ 29.8)
重量利用率(%)	66.1	65.4	65.7	20.9	21.2	21.0
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	55.1	44.2	49.6	17.9	18.8	18.4
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	83.3	67.6	75.5	85.7	88.9	87.4
単価(円) (貨物収入/貨物輸送重量)	432	347	390	97	96	96

\* コロナ前(2019年1月～12月実績)との比較

## 航空事業 計画前提

## 計画前提 (LCC事業)

(CY19実績はPeach・バニラエア合計)

		LCC		
		上期 (実績)	下期 (修正計画)	通期 (修正予想)
座席キロ	前年比 (CY19比)*	+ 85.3 (+ 3.0)	+ 39.1 (+ 12.0)	+ 58.3 (+ 7.4)
旅客キロ	前年比 (CY19比)*	+ 136.7 (△ 17.3)	+ 83.5 (+ 16.4)	+ 103.1 (△ 0.9)
旅客数	前年比 (CY19比)*	+ 137.0 (△ 7.8)	+ 79.5 (+ 26.9)	+ 100.4 (+ 9.2)
座席利用率(%)		69.8	87.8	79.1
ユニットレベニュー(円) (売上高/座席キロ)		6.8	9.1	8.0
イールド(円) (売上高/旅客キロ)		9.7	10.4	10.1
単価(円) (売上高/旅客数)		11,076	11,984	11,593

\* コロナ前(2019年1月~12月実績)との比較

Intentionally Left Blank

## グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

## グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である  
私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます  
私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

## グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で  
世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針  
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)  
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)  
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)  
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)  
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)  
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

## 免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 → I R 資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : [ir@anahd.co.jp](mailto:ir@anahd.co.jp)